

口腔と全身性疾患を繋ぐ細胞外小胞の動態

岡村裕彦

岡山大医歯

ほぼ全ての細胞は、脂質で包まれた小さな小胞を外部に分泌する。これは細胞外分泌小胞と呼ばれ、内部には核酸、蛋白質、脂質など様々な因子が含まれている。近年、歯周病などの口腔疾患は全身性疾患の増悪と深い関連性があることが分かってきた。

しかしながら、そのメカニズムは不明な点が多い。我々は、歯周病原菌(*Porphyromonas gingivalis*: *P. gingivalis*)を取り込んだマクロファージ由来の細胞外分泌小胞(Pg-inf MΦ EVs)に着目して、歯周病と全身性疾患との関連について分子生物学的手法により解明を続けている。Pg-inf MΦ EVs は、菌由来の病原因子やマクロファージの核蛋白を含み、肝臓・肺・胎盤などの遠隔臓器に到達し、様々な障害性を示すことが分かった。今回の発表では、これまでの知見を紹介し、数理とどのように結びつけることができるか、多くの先生方のご意見を頂きたい。